

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【公表番号】特表2013-506733(P2013-506733A)

【公表日】平成25年2月28日 (2013.2.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-010

【出願番号】特願2012-532249(P2012-532249)

【国際特許分類】

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/32 (2006.01)

C 0 8 K 5/50 (2006.01)

C 0 8 G 59/00 (2006.01)

C 0 9 D 163/00 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

H 0 1 L 23/29 (2006.01)

H 0 1 L 23/31 (2006.01)

H 0 1 L 33/56 (2010.01)

【 F I 】

C 0 8 L 63/00 C

C 0 8 K 3/32

C 0 8 K 5/50

C 0 8 G 59/00

C 0 9 D 163/00

C 0 9 D 7/12

H 0 1 L 23/30 R

H 0 1 L 23/30 F

H 0 1 L 33/00 4 2 4

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月27日 (2013.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

本発明の低色度のエポキシ樹脂組成物において使用されるエポキシ樹脂、成分 (a) は、1 分子当り 1 又は 2 個以上のエポキシ基を含む 1 又は 2 種以上のエポキシド樹脂化合物を含むものであることができる。エポキシ樹脂は少なくとも 1 つのビスナルエポキシ基を含む化合物である。エポキシ樹脂は、飽和又は不飽和の、脂肪族、環式脂肪族、芳香族又は複素環式であることができ、置換されていてもよい。エポキシ樹脂はモノマーであってもポリマーであってもよい。本発明において有用なエポキシ樹脂の広範な列挙は、引用により本明細書に援用する Lee, H. 及び Neville, K., "Handbook of Epoxy Resins (エポキシ樹脂ハンドブック)", McGraw-Hill Book Company, NewYork, 1967年, 第2章第257頁 ~ 第307頁に見られる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

(a) 少なくとも 1 種のエポキシ樹脂及び (b) 組成物の総質量を基準にして 25 ppm ~ 175 ppm の無機ピロホスフェート化合物を含むエポキシ樹脂組成物であって、前記無機ピロホスフェート化合物が最終的なエポキシ樹脂組成物の貯蔵安定性を高める、エポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 2】

前記無機ピロホスフェート化合物が二塩基性ピロリン酸ナトリウム又は四塩基性ピロリン酸ナトリウムである、請求項 1 に記載の エポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 3】

前記組成物中に存在する無機ピロホスフェートの量が前記組成物の総質量を基準にして 100 ~ 175 ppm である、請求項 1 に記載の エポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 4】

前記エポキシ樹脂が環式脂肪族エポキシ樹脂、芳香族エポキシ樹脂、液状エポキシ樹脂、又はそれらの混合物を含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の エポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 5】

(a) 少なくとも 1 種のエポキシ樹脂及び (b) 組成物の総質量を基準にして 25 ppm ~ 175 ppm の無機ピロホスフェート化合物を混合することを含み、前記無機ピロホスフェート化合物が最終的な低色度のエポキシ樹脂組成物の貯蔵安定性を高める、低色度のエポキシ樹脂組成物の製造方法。

## 【請求項 6】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の エポキシ樹脂組成物及び硬化剤を含む、硬化性の低色度のエポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 7】

前記硬化剤が、酸無水物、フェノール系化合物、アミン、カルボン酸、カチオン性化合物、超酸、又はこれらの混合物からなる群から選ばれる、請求項 6 に記載の 硬化性の低色度のエポキシ樹脂組成物。

## 【請求項 8】

前記無機ピロホスフェート化合物が二塩基性ピロリン酸ナトリウム又は四塩基性ピロリン酸ナトリウムである、請求項 5 に記載の 方法。

## 【請求項 9】

前記組成物中に存在する無機ピロホスフェートの量が前記組成物の総質量を基準にして 100 ~ 175 ppm である、請求項 5 に記載の 方法。